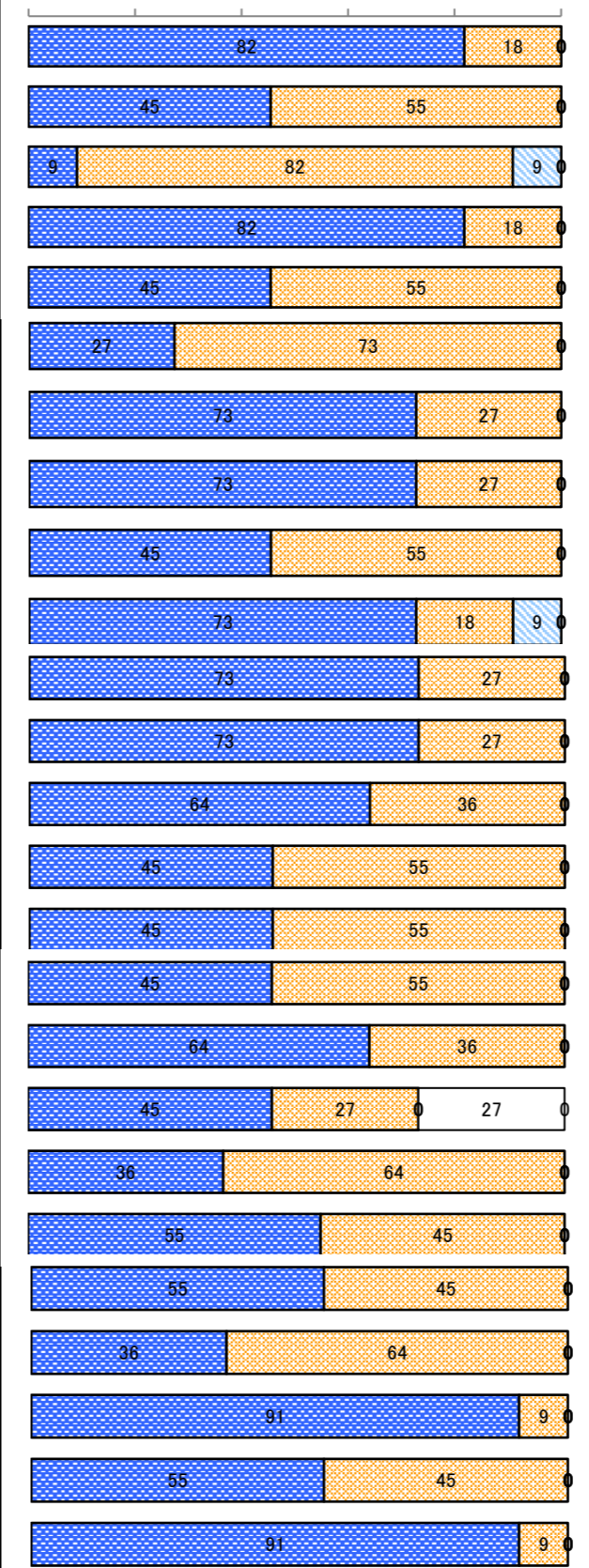
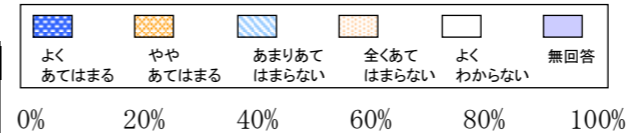


		アンケートの結果		上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
		A	B	C	D	よく分らない	無答			
学校全体の様子	1 教育目標・方針	16	13	3	0	3	66			
	2 児童・生徒の様子	74	19	4	1	2	0			
	3 基本的な生活習慣	60	31	6	2	1	0			
	4 児童・生徒理解	54	33	8	1	3	1			
	5 健康・安全・安心	72	20	4	3	1	0			
学力向上の取組	6 分かる授業	68	25	4	2	1	0			
	7 個に応じた指導	72	22	3	2	1	1			
	8 学習習慣	66	20	11	1	1	0			
	9 情報教育	82	12	4	1	2	0			
	10 学校図書館の活用	67	22	6	3	3	0			
社会性・人間性の育成	11 人権教育	74	20	2	1	3	0			
	12 道徳教育	65	20	8	3	4	0			
	13 教育相談	63	18	11	3	4	0			
	14 人間関係づくり	79	16	3	2	1	0			
	15 自治的な活動	58	31	8	2	1	0			
保護者・地域との連携	16 情報発信	51	24	8	3	15	0			
	17 相談への対応	70	17	6	2	4	1			
	18 学校への参加	53	18	6	5	17	1			
	19 地域との連携	39	20	9	8	24	1			
	20 意見の反映	54	16	4	3	22	0			
各学校の特色ある教育	21 六日しぐさ	43	39	8	4	5	1			
	22 国際理解教育	52	30	10	6	2	0			
	23 学力向上の取組	51	29	10	6	4	0			
	24 食育・健康教育	69	25	3	2	2	0			
	25 外部講師の活用	70	20	5	2	2	0			



無効票を除く(%)

無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

- 昨年度は過去5年で保護者のA B評価が1番高かったが、今年度もほぼ変化なく保っている。教育方針の周知が図れている。
- 教育課程を通常どおり行えない中、児童・保護者からのA B評価が昨年度とほぼ変化ないのは工夫・努力の成果である。
- 保護者のA B評価は昨年度とほぼ変わらないが「分からない」が4.2%増加した。公開等の減少の影響と思われる。
- 保護者のA B評価は高止まりだが、昨年度0%だった「分からない」が5%だった。公開等の減少の影響と思われる。
- コロナ禍の中だが、児童のA B評価は昨年度とほぼ変わらず、児童は安心して学校生活を送っている。
- 児童のA B評価は昨年度とほぼ変わらない。教育課程が当初から変更を余儀なくされたが、工夫・努力が実っている。
- 保護者のA B評価は昨年度とほぼ変わらないが「分からない」が5.1%増加した。公開等の減少の影響と思われる。
- 保護者・児童共にA B評価が昨年度とほぼ変わらない。休校中含めた課題提示や各学級・寺子屋の補充学習が成功している。
- 児童は25問中A評価が最も高く、ICT活用の実感がある。保護者のA評価と非常に乖離があるので、情報発信していく。
- 児童のA B評価は昨年度より7.2%低下した。夏休みの短縮で「調べる学習コンクール」を任意としたことが実感に影響した。
- 児童のA B評価は高止まりで、保護者の「分からない」が2.8%増加した。公開等ないことが影響していると考えられる。
- 保護者の「分からない」が1.6%増加したが、D評価が3.3%減った。道徳教育を行っていることに理解が得られてきている。
- 保護者の「分からない」が1%増加したが、4.3%だったD評価が0になった。教育相談体制に理解が得られてきている。
- コロナ禍で行事は計画どおり行えなかったが、児童のA B評価が昨年度より1%増えた。工夫・努力が実っている。
- 保護者・教員共に昨年度よりA評価が減りB評価が増えた。感染症対策で児童主導の活動が行いにくい状況だった。
- 保護者のA B評価が減った。公開がないことで「様子が分かる」という間に当てはまらないと感じたのではないかと。
- 昨年度0だった保護者のD評価が1.1%になった。教職員の評価は昨年度Aのみだったが、Bが増えた。真摯に対応していく。
- 公開ができないため、昨年度より保護者のA B評価が1番大きく減った。「分からない」が12.7%、無答が1.7%増えた。
- 地域行事がなかったため、昨年度より児童のA B評価が1番大きく減った。
- 昨年度より「分からない」が保護者4.8%、児童11.6%増加した。公開・行事が減ったことが影響している。
- 昨年度に続き、保護者のA B評価が90%以上と高い評価を得ている。今後も取組を推進していく。
- 保護者の「分からない」が昨年度より12.4%増え、20.2%と最大だった。公開がないことが影響しているが、発信していく。
- 保護者のA B評価はほぼ変わらない。取組は昨年より多かったが通知表の評定基準変更の影響もあると思われる。
- 保護者のA B評価は95%と高止まりし、児童のA B評価は昨年度より3.9%増えた。取組を通じた健康教育の成果が出ている。
- 保護者のA B評価は95.5%と高止まり、児童のA B評価も90%以上だった。今後も専門家による体験学習を充実していく。